

## 定期検査中の 4 号機における原子炉建屋内の水漏れについて

### <概要>

#### (事象の発生状況)

- ・ 定期検査で停止中の 4 号機において、原子炉建屋（原子炉を設置している建物）の 3 階の床に水があふれていることを確認しました。あふれていた水の量は約 1.6 リットル、放射エネルギーは約  $5.1 \times 10^5$  ベクレルでした。

#### (今後の対応)

- ・ 今後、原因について調査します。

#### (安全性、外部への影響)

- ・ 本事象による外部への放射能の影響はありません。

#### (公表区分)

- ・ 本事象は公表区分Ⅲ（信頼性向上のために公表する事象）としてお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

### 1. 事象の発生状況

定期検査で停止中の 4 号機（沸騰水型、定格出力 78 万 4 千キロワット）の原子炉冷却材浄化系\*<sup>1</sup>に設置されているろ過脱塩装置への樹脂のプリコート操作\*<sup>2</sup>の準備作業実施中、平成 21 年 10 月 16 日午後 6 時 24 分頃、原子炉建屋 3 階に設置されているプリコートタンク\*<sup>3</sup>内の水位が上昇し、オーバーフローラインを通してファンネル\*<sup>4</sup>に排水された水が一時的にファンネルより床にあふれていることを、作業を行っていた当社社員が発見しました。

その際、今回の作業においては全閉でなければならないプリコートタンク補給弁（47 弁）ならびにろ過脱塩装置逆洗水入口元弁（197 弁）が全開状態であったことを確認したことから、ただちに 2 つの弁を全閉にしたところ、水の漏えいは停止しました。

あふれた水は管理区域\*<sup>5</sup>内にとどまっており、漏えい量は約 1.6 リットル、放射エネルギー\*<sup>6</sup>は約  $5.1 \times 10^5$  ベクレルで、拭き取りによる清掃を実施しました。

### 2. 今後の対応

今後、水が漏れた原因について詳細に調査します。

### 3. 安全性、外部への影響

本事象による外部への放射能の影響はありません。

**\* 1 原子炉冷却材浄化系**

原子炉水中の不純物を除去し、水質を維持する系統

**\* 2 ろ過脱塩装置への樹脂のプリコート操作**

原子炉冷却材浄化系で使用するろ過脱塩装置のフィルターに、樹脂をコーティング（塗布）する操作。

今回は、樹脂を入れる前の準備作業として、ろ過脱塩装置および系統の水張り等を実施していました。

**\* 3 プリコートタンク**

ろ過脱塩装置のフィルターに樹脂をコーティングする際に使用するタンク。

**\* 4 ファンネル**

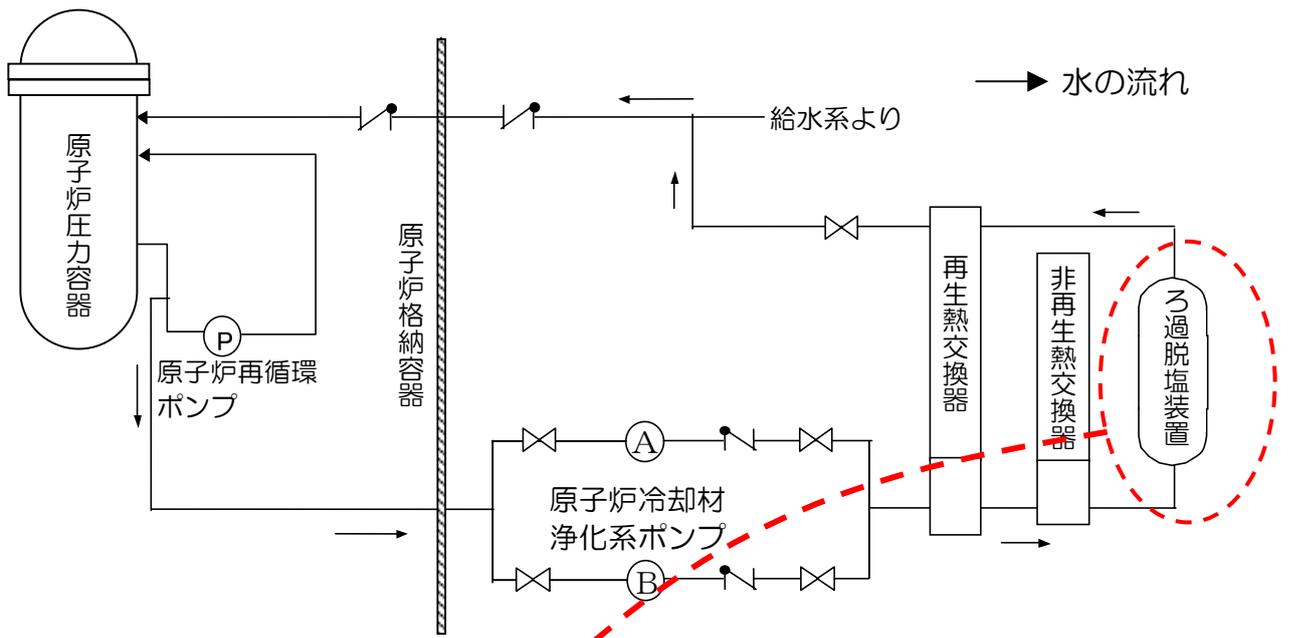
各建屋の配管や機器からの排水を受けるタンクに導く際に中間で水を受ける、いわゆる中間枘のようなもの。

**\* 5 管理区域**

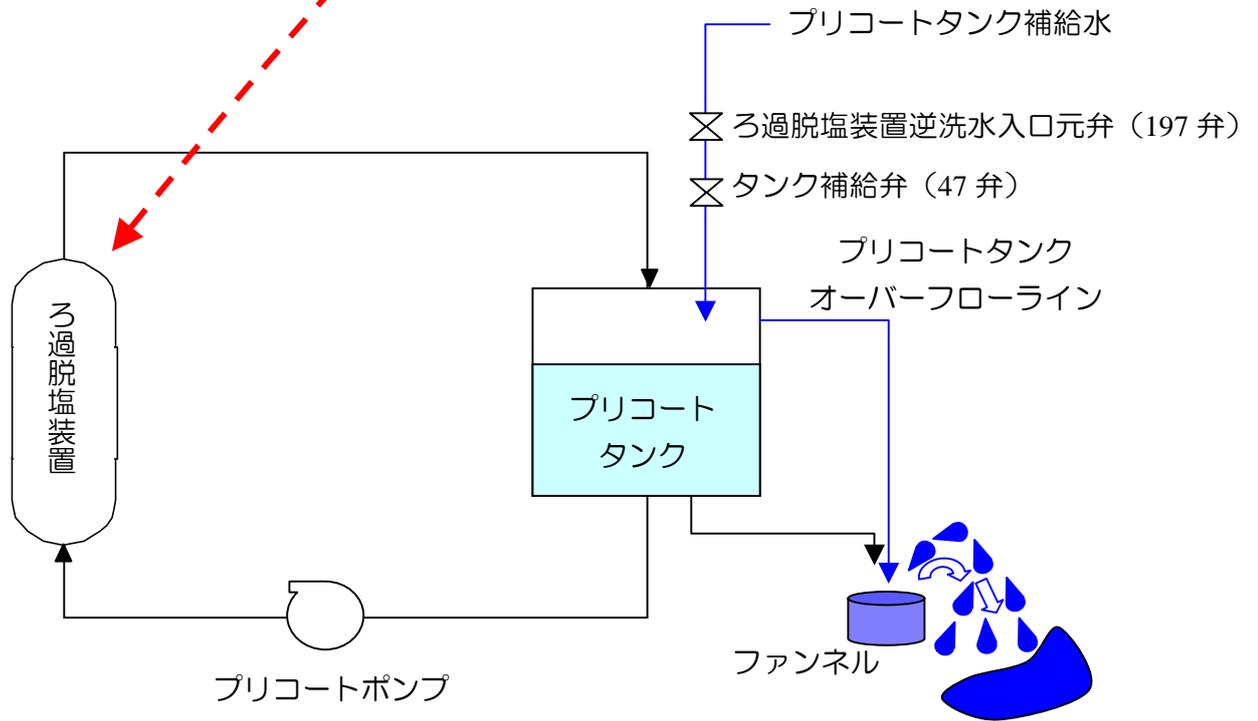
放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかる管理を必要とする区域。

**\* 6 放射能量**

漏えいの拡大を防止するための堰を超える漏えい事象の場合、法令による報告対象として、放射能量については  $3.7 \times 10^6$  ベクレルが目安とされています。



原子炉冷却材浄化系概略図



ファンネルで水が  
掃けきらずあふれた。

原子炉冷却材浄化系ろ過脱塩装置  
フィルター樹脂プリコートライン概略図